

10
月



美園小だより

令和 7年9月30日
さいたま市立美園小学校
第183号 児童数 1042名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

「生きる」ということ

校長 河野 秀樹



(請戸小の被災した体育館)

NHKの朝ドラ「あんぱん」が終わりました。毎日楽しみに見ていたので、心に穴が開いたようです。やなせたかし氏やその妻暢さんは、自身の戦争体験から生涯を通して「逆転しない正義とは何か？」を探し求めていました。「逆転しない正義とは、お腹を空かせて困っている時、自分の身を犠牲にしてでも食事を与えることだ」と考え、アニメ「それいけ！アンパンマン」が生まれました。

先日、福島県に行きました。そこで、震災遺構請戸小学校、東日本・原子力災害伝承館、東京電力福島第一原子力発電所などを視察するとともに、全国や福島県、特に被災市町村の校長先生方、総勢 50 名ほどの方々と交流をしました。被災 12 市町村の児童数は震災前と比べて 14%に減少、双葉町は現在も避難先のいわき市で教育活動を実施、学校数は震災前と比べて 14 校減少（2024 年 5 月現在）。未だに県内外へ避難している 18 歳未満の子どもは 3 千人を超えているそうです。このような困難な課題に対して、福島県の小学校は「学校は復興の最大の拠点」という信念で向き合い、他校との連携・交流活動や少人数指導の実施、地域学習の充実などに取り組んできました。今回お会いした皆さんは、子どもたちの明るい笑顔のため、今自分にできることを考え、最善を尽くしていることが分かりました。

他にも本や映画を通して、東京電力福島第一原子力発電所で地震・津波・原子力の災害対応に当たった方々の、最悪の中での勇気を知りました。吉田昌郎所長は、当時を振り返りながら、このようなことを言ったそうです。「格納容器が爆発すると、放射能が飛散し、放射線レベルが近づけないものになってしまいます。最悪の事態を考えながら対応していました。だからこそ、現場の部下たちの凄さを思うんです。それを防ぐために、最後まで部下たちが突入を繰り返してくれたこと、そして、命を顧みず駆けつけてくれた自衛隊をはじめ、沢山の人たちの勇気をたたえたい」と…。

美園小の 6 年生は、先日「生きる」をテーマに対話をしました。そこでは「意志をもって行動すること」「人のために何かをすること」「退院した時」「人の記録に残り、覚えられていること」「夢を叶えること」などの発言があり、友達の意見を聞きながら、自分の考えを広げ、深めていました。

「なんのために生まれて、なにをして生きるのか」

日本人なら誰もが一度は聞いたことのあるアンパンマンのテーマソングは、「生きる」という本質への問いです。今改めて、歌詞を読み返しながらいろいろと考えさせられました。

参考：「死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発」 門田隆将 角川文庫